

## 『こんにちは県議会です』～大学生との意見交換会～ 開催概要

- 1 開催日時 平成30年10月10日（水）午後2時00分から午後5時30分
- 2 開催場所 議会棟 第1特別会議室
- 3 出席者
  - 県下3大学、短期大学の1～4年の学生23名及び学校関係者  
＜参加学生＞  
長野県短期大学 17名、清泉女学院大学 4名、公立諏訪東京理科大学 2名
  - 鈴木 清議長、小林東一郎副議長
  - 広報委員  
酒井 茂議員、堀場秀孝議員、小山仁志議員、山口典久議員、高島陽子議員
  - 一般質問した議員  
荒井武志議員
- 4 開催内容  
議会傍聴、グループディスカッション、意見・感想等の発表
- 5 意見交換会テーマ
  - ① 「持続可能な社会に向けた高齢者と若者が果たすべき役割」
  - ② 「女性があらゆる場でより一層活躍するには何が必要か」
  - ③ 「災害に備え、住民の防災意識を保ち続ける方策・対策」
  - ④ 「県内出身の若者に長野県に定着してもらうために」
  - ⑤ 「個人の生き方を尊重し、多様な家族形態を受容していくことの必要性について」
- 6 参加者 39名（議員8名、学生23名、傍聴者8名（学校関係者含））



## ●開会

(司会：小林副議長)

定刻となりましたので、ただ今から『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会を開会いたします。本日の司会を務めます、長野県議会副議長で広報委員会委員長の小林 東一郎でございます。どうぞよろしくをお願いします。

それでは、長野県議会を代表いたしまして、鈴木清議長からごあいさつ及び県政報告を申し上げます。

## ●議長あいさつ・県政報告

(鈴木議長)

皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました議長の鈴木清と申します。今日は本当に皆さん、ようこそお越しくささいました。「こんにちは県議会です」という表題で、県民の皆さんといろいろな意見を交換する機会を設けています。今日は、具体的には大学生の皆さんという紹介がありましたが、地元の長野県短期大学、清泉女学院大学、そしてさらに諏訪から公立東京理科大学、大変遠くからお越しいただいています。皆さんと非常にフランクに、ざっくばらんに率直な意見交換ができればいいと思っています。

今、9月から始まりました9月定例会を傍聴していただいたと思います。何となくなじめない部分もあれば、納得できた部分もあり、いろいろな受け止め方をされたと思いますが、そのような質問や疑問がありましたら、後ほど意見交換の中で述べていただけたらと思っています。

それから、今回は「定例会」と言っています。定例会は6月、9月、11月、一番期間が長いのは2月定例会です。2月定例会というのは、来年は平成がなくなりますが、もし平成の年号でいえば31年4月から翌年3月までのいろいろな事業や予算を、県民の皆さんに代わって審議するのが2月定例会です。これが一番長い議会になります。つけ加えて申しますと、今回知事選挙が行われました。皆さんは投票に行かれたでしょうか。知事は阿部守一さん、先ほども議場にいました。知事が3期目、任期4年間、県民の皆さんの思いや願いを込めてどのような県政を進めていくのか、それを確認する議会でもあります。

さらに、皆さんのお手元の資料に、前回6月定例会の概要を掲載した広報紙をお配りしてあります。皆さん、新聞を取られているかどうか分かりませんが、広報紙は全ての全国紙、地元紙に挟んで配布してありますが、ご覧になっていらっしゃるでしょうか。残念ですが、初めて見たという人もいらっしゃるかもしれないですね。

本日の意見交換会ですが、大学生の皆さんに本会議を傍聴していただきました。その後、議員からそれぞれ紹介があると思いますが、意見交換会を行うという試みは、古い話になりますが、明治12年、西暦では1879年に長野県議会が発足して以来、140年の歴史の中で実は今日が初めてです。ですから、歴史的な交換会ということで、ひとつ大いに、率直に、あるいは素朴な疑問、何でも結構ですから意見を出していただけることを願っています。本日の傍聴の感想を含め、普段皆さんが授業やゼミの中で探求していること、学生生活の中で考えていること、それと同時に皆さんは一市民という立場もありますから、市民・県民の立場で長野県に対してどんなことを要望したいのか、あるいは疑問などがありましたら、遠慮なく出していただけたらと思っています。

今日出席している議員を後ほど紹介すると申し上げましたが、皆さんと意見交換ができることを大変楽しみにしていますし、また張り切っていると思います。その辺はどうか分かりませんが……。本日の経験を契機として、県議会・県政に関心を深めてもらい、自分自身が長野県づくりに参加するという気持ち

を強く持っていただくことを期待しております。

特に昨年、公職選挙法が改正になりまして、18歳から選挙権が付与されました。皆さん、選挙に投票に行かれたでしょうか。皆さん、行っていますね。日本は国民主権の国ですから、国民主権のもと、議会の議員を皆さんが選ぶという一番大事な権利であり、責務があるのは投票権です。ですから、皆さんにもぜひ選挙に投票に行ってもらえるように、それと同時に長野県政、国政、あるいは市町村政とありますが、取りあえず今日は長野県議会に率直に意見を出していただいて、身近に感じてもらうことから第一歩になればいいなど、そんなことを願っています。開会に当たり、少し余分なことも申し上げましたけれども、今日は限られた時間ですから、行ってよかったな、こんな話をしてよかったなと思える、心に刻まれるひとときになっていただくことを願って、議長としてのあいさつに代えさせていただきます。気楽に肩の力を抜いて、そこにある冷たい水を飲みながらやってください。ありがとう。(拍手)

### ●出席議員の紹介及び進行方法の説明

(小林副議長)

ありがとうございました。それでは、本日出席の県議会議員を御紹介します。

(小林副議長)

まずは、途中から傍聴していただいたとき質問されていた議員であります、県議会広報委員会副委員長の、酒井 茂議員。

(酒井議員) はい、こんにちは。

(小林副議長) 広報委員である堀場 秀孝議員。

(堀場議員) こんにちは。

(小林副議長) 同じく、小山 仁志議員。

(小山議員) はい、よろしくお願いします。

(小林副議長) 同じく、山口 典久議員。

(山口議員) はい、よろしくお願いします。

(小林副議長) 同じく、高島 陽子議員。

(高島議員) よろしくをお願いします。

(小林副議長) そして本日、本会議で質問した荒井 武志議員。

(荒井議員) よろしくをお願いします。

(小林副議長)

以上でございます。では、意見交換の進行方法について御説明します。

学生の皆さん及び議員にはAからCの3つのグループに分かれていただきます。

グループごとに、学生の皆さんから提案のあったテーマについて1時間程度、自由にグループディスカッションをします。

テーマは2～3ありますが、それぞれのグループの進行状況により、いくつかのテーマについて話し合ってもよいこととします。また、必ずしも結論を出す必要はありません。

グループ内の意見等をまとめた上、各グループの発表担当の学生さんから、発表していただきます。その際、グループごとの持ち時間を5分間程度とし、その時間内で、同じグループの代表議員からも、一言感想を述べていただきたいと思います。

以下、次のグループも同様とし、順番に3グループの発表を行います。

意見交換の進行についての説明は以上です。

なお、本日の、「こんにちは県議会です」は、ビデオ撮影を行い、あわせて、概要を文章にまとめて、議会のホームページに掲載いたします。

これは、本日ご参加いただけなかった皆様にもご覧いただけるようにするものですので、よろしくお願いいたします。

なお、報道の皆様をお願いいたします。記事にする場合等は、質問される学生さんの許可を得るなど、個人情報保護には十分御配慮をいただきますようお願いいたします。

また、傍聴される方にもお願いがあります。

「意見交換会」の傍聴については会場内を自由に移動していただいて結構ですが、開始後5分程度、各グループが自己紹介を終了する頃までは、傍聴席に着席のままお待ちいただくよう、お願いいたします。

それでは、議員は各グループに分かれてください。

## 【50分ほど意見交換会】

### ●意見・感想等の発表

(小林副議長)

お話は尽きないと思います。皆さん、まだお話ししたいこともあろうと思いますが、終了の時間も迫ってきております。各グループで話し合った内容について、発表をいただきたいと思います。それぞれのグループごとに、5分程度で発表と議員の感想をお願いいたします。

まずAグループから、発表担当の学生さん、お願いをいたします。

(Aグループ代表学生)

Aグループでは、持続可能な社会について、若者や高齢者がどのように活躍すべきかということと、女性があらゆる場でより一層活躍するには何が必要かということについて話し合いました。

持続可能な社会に向けて、高齢者と若者が果たすべき役割について考えたときに、議長さんがおっしゃった二極化してしまう恐れがある、若者はこうするべきだ、高齢者はこうするべきだというふうになってしまうということが怖いのではないかというお話があったのが印象的でした。若者だからこうしなきゃいけない、お年寄りだからこうしなきゃいけないというのではなくて、同じ地域に住んでいる者として、どうやってその地域を持続可能な社会にしていくのかというのを考えるのが大事なんだなと思いました。

あとは、議長さんがおっしゃっていたことで、若者は体験したことが全て財産になるというお言葉がすごく印象に残りました。そのことを胸に置いて、日々いろいろなことを体験していくことが、持続可能な社会を実現するためにも、ひとつ私たちができることなのかなと感じました。

それから、女性があらゆる場でより一層活躍するためには何が必要なのかということなんですけれども、

やはり男女雇用機会均等法という法律はちゃんと整備はされているんですが、機能していないことが多いのではないかという話がありました。あと、資格を持った女性が社会で活躍するのがとても強いので、自分のポジションは自分でつくれと。周りが出産や子育てで会社を離れてしまうときに、自分の仕事がなくなってしまうんじゃないかというふうに懸念を抱いて、子どもを産むことを躊躇してしまう人がいる中で、自分のポジションは自分でつくれと、その言葉がすごく印象に残りました。そんな感じでよろしいでしょうか。(拍手)

(小林副議長)

次に議員の感想であります。鈴木議長には後ほど議長所感を述べていただきますので、堀場議員、お願いします。

(堀場議員)

お疲れさまでした。若い女性の意見を聞いて参考になりました。うちでは選挙の投票率のことがあったのですが、関心がないという中で、SNSをうまく使っていったらいいのかなという意見が出たということと、男性も育児休暇を取るような方向で、男性の考え方を変えていくことによって、女性も育児休暇が取りやすくなって、なおかつそれが少子高齢化の少しの政策になるのかなということを勉強させていただきました。ありがとうございました。

(小林副議長)

では、次にBグループの代表の方、お願いいたします。

(Bグループ代表学生)

私たちのグループでは、災害についての議論と、女性があらゆる場でより一層活躍するには何が必要かということ議論してきました。

まず、災害についてなんですが、私が今回議論していて一番感じたのは、やはり実際災害というものは経験しないと分からないなというのがあって、今、北海道での地震とかすごい災害が増えているなという印象があるんですけど、実際その中で防災防災というふうに言われてはいるんですが、やはり経験しないと分からないというところは大きいというのが議論の中であって、今、小中学校で主に、義務教育の中で避難訓練であったりとかそういうことが行われていると思うんですが、強制的ではあっても、そういったものを通して災害に対して危機感を持つことが大事だということをすごく感じました。

あと地域によっては、小中学校だけでなく、高校などでもそういった防災対策というのをやっているところがあるというのを今回議論していて分かったのですが、そういった意識を持っていくことと、自分たちが住んでいる土地がどういった土地なのか、防災にどれだけ対策がされているのかなどを知っておくことも大事だなというのをとても強く感じました。

また、テレビなどを通して知るということが多くて、長野県自体もあまり大きな災害がないなという印象があって、やはり他の地域で起きた災害などを見ても、第三者としての認識が強くなってしまいうというのが議論の中であって、そういった中で、やはり実際に行動に起こせないというのがあって、そういった第三者

としての見方というのも変えて、実際に行動に起こせるように意識を高めていく必要もあるというのをすごく感じました。

2つ目の女性があらゆる場で一層活躍するにはどうしたらいいかということに関してですが、私たちのグループでは、主に女性議員の少なさというところに焦点を当てて話をしました。高島さんがいらっしやって、女性議員のお話というのを直接お聞きすることができたんですけども、現在長野県議会が58議席中5議席しか女性議員さんがいらっしやらないというのを聞いたんですけども、私たちの議論の中で、それを知っていたという人も少なく、やはり若者の政治に対する意識とか、議会に対する意識というのは低いんじゃないかなというのは感じていて、私自身もそういったことに関してまだあまり全然知識がなかったので、もっとそういうことを知っていかなくちゃいけないなというのを強く感じました。

そういった議員さんとか、行政に携わっている人というのは、男性がやるべきだという考えを持つ人はやっぱり多いんじゃないかなというのが意見の中にあって、実際そういった仕事に就いている人というのは男性が多くて、女性も実際、行政・議会に限らず自治会長であったり区長というのもすごく少なく、0.8%しかいないというのを今日の議論でお聞きしました。議会の女性議員をもっと増やしていくかということもそうですが、その話の中で、普通の一般企業での女性活躍という話も出てきて、一般企業でもやはり女性に対する意識というのは低いんじゃないかなという意見がありました。何が原因かというのが、男性は男性の仕事、女性は女性の仕事というふうに役割分担をしているという意識がいけないんじゃないかというのがあって、結果として、女性が活躍していくためには、男の人はこの仕事、女性はこの仕事というふうに考えを分けるのではなくて、お互いに女性は男性のことを理解して、男性は女性について理解していくということが一番大事なんじゃないかという結論になりました。

全体を通して、今回他の大学の学生さんであったりとか、実際に議員さんのお話をお聞きすることができて、あまりない機会だったので、こういった機会はすごく大事だということを今回議論としてすごく感じました。いい体験をさせていただきました。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

荒井議員、感想をお願いします。

(荒井議員)

35番目に質問しました荒井武志でございます。

私の感想としては、やはり防災関係につきましては、皆さんが小学校・中学校の体験を通じて、こういう話をすると「ああ、そうだね」ということがよみがえってきたというか、そういうふうにとぶん思っているんだろうと感じました。富山ご出身の方からは、高校でもやっていたというようなお話があって、本当にそういうこともやはり体験が大事だなと。そういうことを通じて、防災訓練が地域でもあったりするのですが、そういうところには皆さんにもぜひ出ていただくようにしていただければ、よりいいのかなと思いました。また、歴史的なこと、あるいは過去のこういうところはこうだったとか、あるいは地名で判断できるものがあるということでみんなも理解をしてきたのですが、やはりそういうことを伝承していく。書き物で伝えるということも大事ですが、口でどんどん将来につないでいくということも大事かと思いました。

それから災害のことという、私は実は手話で若干あいさつをさせていただいていたのですが、障害をお

持ちの方を、では災害があったときにどうやって一緒に避難するのか。耳の不自由な人は、何か音があっても音は全く分からないわけです。そういう人にどうするか。またインバウンドということで外国人が大勢入ってくるのですが、そういう人に対して、手招きでもいいから「今大変だよ」と、そういうことをどうやって伝えるか。そういうようなことも大事にしていだければと思います。

女性の活躍では、企業に就職されるというお話もありましたが、やはり福利厚生がしっかりしているところは当然いいかと思うのですが、長野県は中小企業が多いわけで、なかなかそこも行かない。そうしたらある方から、そういう企業が手を取り合って厚生事業をやる、そんなようなこともいいのではないかという声も聞きました。やはりそういうことを通じて、地域をみんなでもり立てる、そういう取り組みがこれから大事なのかなというふうに思ったところでございます。

私も長野県民の1人として、また若い人たちの声もこれからも一生懸命聞かせていただいて、参考にさせていただきながら、共に生きる社会をつくっていきたいと思います。以上でございます。ありがとうございました。

(小林副議長)

では、Cグループで発表を担当される学生さん、お願いいたします。

(Cグループ代表学生)

意見交換のテーマの、「県内出身の若者に長野県に定着してもらうために」では、高校卒業して、長野県内の大学に進学してもらうだけではなく、1回外に出て長野県にまた戻ってもらうことも大事ではないかという話になりました。

あと「個人の生き方を尊重し、多様な家族形態を受容していくことの必要性について」では、LGBTやジェンダーだけの話ではなく、国籍（の違い）や障害を持った方たちの生活していくことについて話し合いました。議員さんの意見として、政治の人のほうが考えが偏っていることもあるんじゃないかという話が出ました。以上です。

(小林副議長)

広報委員の酒井議員、お願いをします。

(酒井議員)

大変勉強させていただきました。幾つもあるのですが、2つ申し上げたいと思います。

まず1つは少数派、性的少数の問題、それから国籍の問題、さまざまな少数というものがあるわけですが、多様な生き方を尊重する社会を実現していくと、こういうものが非常に重要であるし、こういうものはやはり若者が定住するということに間接的にはつながっていくのではないかと考えたわけです。そして、今発表がありましたように、これを変えていくには、やはり政治の力、政治がそういうものを受け入れていく、あるいは進めていく、そういう環境づくりというのをしっかりやっていく必要があるということを感じたところでございます。

もう一点は、若者の柔軟な考え方が非常に重要であるということです。これからを担う若い皆さんの考え

や意見を政治に反映していく、こういうことが非常に重要であると。そのためには、例えば県と大学生の皆さんが意見交換をするとか、一緒に事業をするとか、こういうこともこれから取り入れていく必要があるかと感じたわけです。

大変いい意見、いいお考えをお聞きしまして勉強になりましたので、これからの私の活動に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

(小林副議長)

ありがとうございました。終了時刻を既に経過しているわけではありますが、大変活発な議論になりまして、それぞれのところでいい議論ができたかなと思います。せっかくの機会でありますので、参加された学生さんの中で、ぜひこれは一言言っておきたいという方がいらっしゃいましたら、発言をいただきたいと思えます。いらっしゃいますか。遠慮しなくてもいいですよ。

では、誰もお手を挙げられないので、最後に鈴木議長から、学生さんからの意見発表などをお聞きいただいた感想をお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

## ●議長所感

(鈴木議長)

予定の時間が過ぎたようですが、今日は女性の社会進出、あるいは役割、そういう意見がテーブルごとにあつたやにお聞きいたしました。ところが、今日お見えの皆さんのうち男性は4人で、あとほとんど女性でありますから、今日の集まりは女性の皆さんも積極的に意欲を持って参加をしていたのかなと私は受け止めています。

今日のいろいろな意見交換会なのですが、長野県議会としても初めての試みです。ですから、皆さんもあらかじめテーマを絞って提示していただいたのですが、できれば、もう少し時間を取って自由闊達に、白紙の状態から論議を深めてもいいのかなというのが第1の感想でした。

2つ目には、こんなことを質問してもいいのかな、こんな発言してもいいのかなと、ややもすればそういうためらいをお持ちの方があつたやにお見受けしています。こういう場ですから、約束事やルールは一切ありません。先ほど傍聴していただいて、議会の運営というのは非常にルール化されています。普段皆さん方が使わない言葉を使っていました。私も議長の立場で、記憶にあるかどうか分かりませんが、「本日をもって、会議を終局いたします」と、本当は「これにてお開き」と言いたいのですが、なかなかそうは行きません。ですから、そういう約束事の中に、皆さんはこれから社会人になっていくと、いろいろな義務や権利や縛りがありますが、今のときに自由闊達に、大いに社会勉強していただいたらと思っています。

余談になりますが、若いときは1年が長くて1日が早いと言っています。まだ21歳か、まだ23歳かと。ところが1日があつという間に過ぎてしまうのです。年を取ってくると、1日が長いです。日がな口を開けてテレビを見て、新聞を何回も読み直して、ところが年はあつという間に取ってしまう。ですから皆さんも、長い人生の行程の中で、今一番充実し、一番学び、そして基礎体力を付けるときですから、大いに自分の真理を見極めながら、二度や三度の失敗にへこたれず、ぜひ頑張っていただけたらなど、そんなことを、今日は議会を代表して皆さんに送りたいと思っています。

今日は初めての試みですが、逆に私ども議員が、皆さんの目線と同じレベルで話を聞かせていただいて大



いに学ぶことがあったということ、今日参加議員に代わって御礼を申し上げたいと思います。「こんにちは県議会です」ではなくて、本当は「こんばんは県議会です」でも良かったかなと思ったのですが、まだまだ時間が早いような気がしますので、これまた次回に譲りたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

●閉会

(小林副議長)

鈴木議長ありがとうございました。

いろいろ世の中で、若い人がしっかりした意見を持っていないのではないかというような意見を述べられる方、そういう新聞のコラムもあるわけでありまして。今日、こういう大学生との意見交換会を催して、そうではない、学生さんたちはしっかりした意見を持っておられるのだけれども、それを聞く場がなかったのではないかということ強く感じたところであります。

本日皆さんから頂きましたご意見は、広報委員を通じて全議員にお伝えをし、今後の議員活動の参考にするとともに、本会議の質問や会派の要望に反映させていきたいと思っております。

以上をもちまして、「こんにちは県議会です～大学生との意見交換会～」を終了いたします。

学生の皆さん、そして会場の皆さま方におかれましては、長時間にわたり熱心にご参加をいただきまして誠にありがとうございました。

—了—